

原 著

教育実習における学生の教育実践力についての意識に関する考察

山崎光洋 (岡山大学大学院教育学研究科)

岡山大学教育学部では、実践的指導力を身に付けた教員養成を目的とした「教員養成コア・カリキュラム」に取り組んでいる。また、それぞれの学生が身に付けた実践的指導力について自己評価できるよう「教職実践ポートフォリオ」を作成し、試行を始めている。今回、「教職実践ポートフォリオ」の自己評価の指標と関連させて、実践的指導力を獲得、あるいは発揮できる場である教育実習（主免実習）を通して、学生が自らの教育実践力がどのように変化したと考えているのかを調査した。本稿では、その結果を基に、教育実習（主免実習）における学生の教育実践力についての意識を考察する。

キーワード：教育実習，実践的指導力，ポートフォリオ，教員養成

I はじめに

岡山大学教育学部では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で構成された教育実践力を身に付けた実践的指導力のある教員の養成を目的に、教育実習・体験的授業科目を軸（コア）にした「教員養成コア・カリキュラム」に取り組んでいる。

一方、1年次から4年次までの積み上げ方式で行われる教育実習や体験的授業科目に対応して、それぞれの時期に応じ身に付けるべき具体的な教育実践力を明示し、示された指標によって学生が自己評価できるよう「教職実践ポートフォリオ」が作成され、その一部が試行されている。なお、この「教職実践ポートフォリオ」は、教育実習の事前・事後指導や4年次に開講される「教職実践演習（仮称）」等で、教育実習における課題意識を明確にしたり、身に付けた実践的指導力を振り返ったりするために活用することが考えられている。

「教職実践ポートフォリオ」は、試行を重ねながら自己評価の指標を検討している段階である。教育実習を通して獲得、あるいは発揮されることが期待される教育実践力と、実際に行われる教育実習の置かれた状況についての検討が加えられ、育成しようとする教育実践力と教育実習の実施内容が改善され、一層充実したものになっていくと考える。

本稿では、小学校及び中学校教育コースの学生を対象に、主免実習を通してどのような教育実践力が身に付いたと考えているかを調査し、主免実習における学生の教育実践力についての意識を考察する。

II 「教職実践ポートフォリオ」の自己評価の指標と自己評価

「教職実践ポートフォリオ」は、1年次から4年次までの積み上げ方式で行われる教育実習や体験的授業科目に対応して実施される。小学校及び中学校教育コースの学生に対して平成20年度の主免実習後に試行された自己評価では、教育実践力を構成する4つの力についての指標と、自己評価の結果は次のようになっている。

1 学習指導力

- ①教科等の目標や児童・生徒の発達の段階に応じた教材・教具を選定し、授業を構成することができたか。
- ②教科等の目標や児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導案を作成し、それに沿って授業を進めることができたか。
- ③発問や板書計画等の細案を作成し、計画的に実行することができたか。
- ④実施した授業を分析して問題点を見だし、改善が必要な点を明らかにすることができたか。

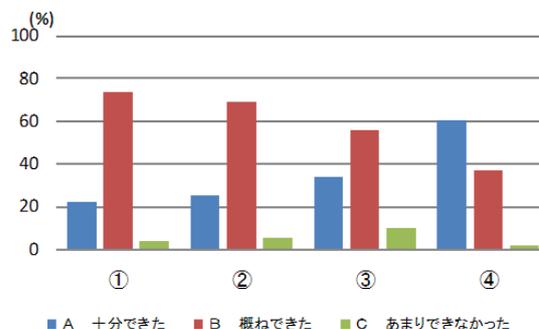


図1 学生の自己評価結果（学習指導力）

2 生徒指導力

- ①心身や社会性の発達等，児童・生徒の発達の特徴を，学校生活を通して具体的に理解し，指導に生かすことができたか。
- ②児童・生徒の学校・家庭・地域での遊びや生活に関心をもち，それらと学校生活との関連を見いだすことができたか。
- ③学校・学級でみんなが楽しく生活するために必要な基本的な社会規範やルールを理解し，児童・生徒に指導することができたか。
- ④児童・生徒との共感的なコミュニケーションや，状況に応じた働きかけを実践することができたか。

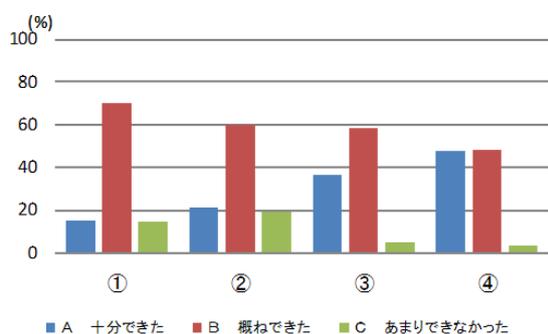


図2 学生の自己評価結果（生徒指導力）

3 コーディネート力

- ①学校と保護者や地域との連携・協力の大切さを踏まえ，連携・協力が求められる活動に参画することができたか。
- ②学級経営，教科指導，生徒指導等について，教育実習生同士で協働して実践することができたか。
- ③学級経営，教科指導，生徒指導等について，教職員と連携・協力して実践することができたか。

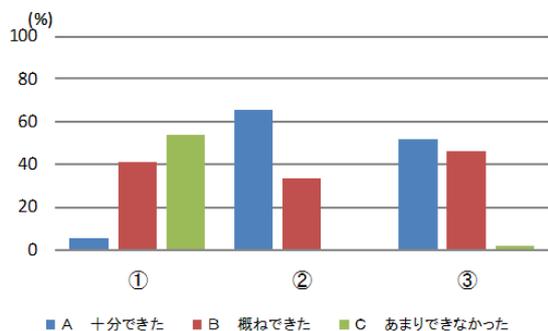


図3 学生の自己評価結果（コーディネート力）

4 マネジメント力

- ①学年行事や学校行事の年間指導計画を基に，それらの役割を考え，進んで運営しようとする事ができた

か。

- ②児童・生徒が健康・安全に過ごせるよう教室環境を整えることができたか。
- ③学習指導計画，実習日誌，実習レポート等を，スケジュールに沿って提出することができたか。
- ④児童・生徒の個人情報，学年や学校の情報を，適切な方法で管理することができたか。
- ⑤教育活動中に起きた様々な出来事に冷静に対応することができたか。
- ⑥応用実習に向けて，自分なりの課題を見付けることができたか。

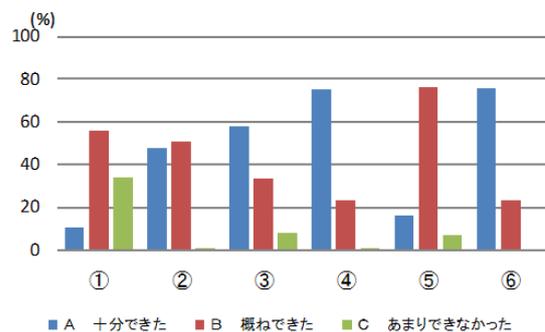


図4 学生の自己評価結果（マネジメント力）

自己評価結果を見ると，学習指導力では「④実施した授業を分析して問題点を見だし，改善が必要な点を明らかにすることができたか。」，生徒指導力では「④児童・生徒との共感的なコミュニケーションや，状況に応じた働きかけを実践することができたか。」，コーディネート力では「②学級経営，教科指導，生徒指導等について，教育実習生同士で協働して実践することができたか。」，マネジメント力では「④児童・生徒の個人情報，学年や学校の情報を，適切な方法で管理することができたか。」と「⑥応用実習に向けて，自分なりの課題を見付けることができたか。」について「十分できた」と高い評価をしている。一方，学習指導力や生徒指導力では，いずれの指標においても「あまりできなかった」と評価している学生は多くないが，コーディネート力の「①学校と保護者や地域との連携・協力の大切さを踏まえ，連携・協力が求められる活動に参画することができたか。」と，マネジメント力の「①学年行事や学校行事の年間指導計画を基に，それらの役割を考え，進んで運営しようとする事ができたか。」では低い評価をしている学生が多い（図1～4）。また，教育実践力を構成する4つの力を比較すると，「十分できた」と評価した学生の割合で

比較すると、マネジメント力、コーディネート力、学習指導力、生徒指導力の順になる。学習指導力と生徒指導力に関しては、「概ねできた」と評価する学生が多く、「十分できた」と評価する学生は必ずしも多くない。しかし、「あまりできなかった」に注目するとコーディネート力の評価の低い学生が多い(図5)。4つの力の具体的な自己評価の指標については「できたか。」という行動で問うているため、そのような機会があったかどうかという状況に左右されていることも考えられる。しかも、教育実習を通して獲得された力が、どの程度あると考えればよいのか判断しにくい。教育実習を通して向上した教育実践力は何であろうか。

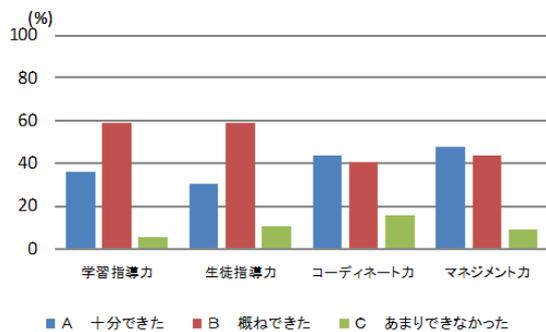


図5 学生の自己評価結果 (4つの力の比較)

Ⅲ 教育実践力の獲得に関する学生のとらえ方

平成21年度の小学校及び中学校教育コースの学生に、平成20年度と同様の自己評価の指標の文末を「できたか。」ではなく「できる。」に変え、教育実習(主免実習)を終えた時点で、最も向上したと考える指標と最も向上しなかったと考える指標について回答させた。

それぞれのコースの結果を示すと、次のようになった。

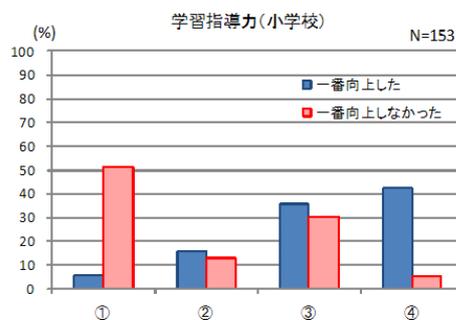


図6 向上した学習指導力 (小学校)

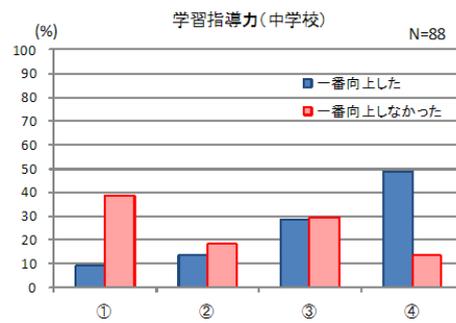


図7 向上した学習指導力 (中学校)

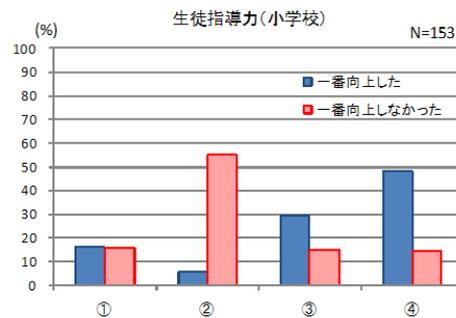


図8 向上した生徒指導力 (小学校)

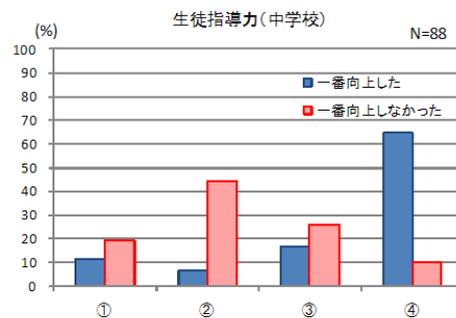


図9 向上した生徒指導力 (中学校)

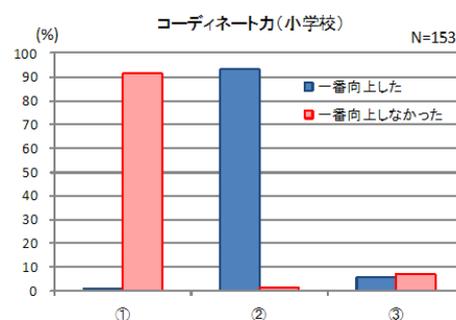


図10 向上したコーディネート力 (小学校)

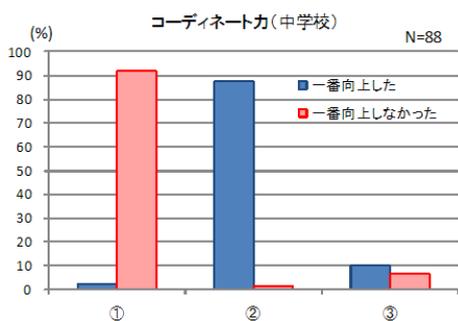


図 11 向上したコーディネート力 (中学校)

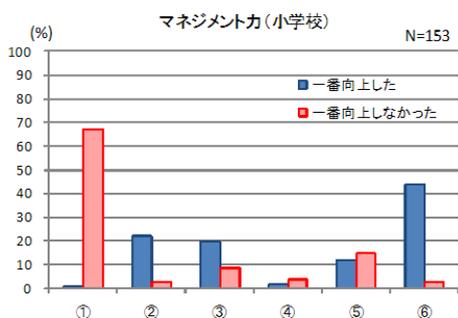


図 12 向上したマネジメント力 (小学校)

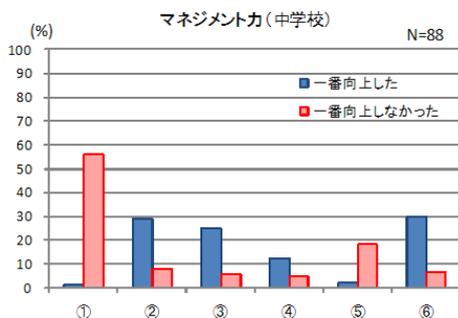


図 13 向上したマネジメント力 (中学校)

学習指導力に関しては、どちらのコースの学生も「④実施した授業を分析して問題点を見だし、改善が必要な点を明らかにすることができる。」が最も向上したと回答し、「①教科等の目標や児童・生徒の発達の段階に応じた教材・教具を選定し、授業を構成することができる。」が最も向上しなかったと回答している。

生徒指導力に関しては、どちらのコースの学生も「④児童・生徒との共感的なコミュニケーションや、状況に応じた働きかけを実践することができる。」が最も向上したと回答しているが、中学校教育コースの学生に特に多い。また、「②児童・生徒の学校

・家庭・地域での遊びや生活に関心をもち、それらと学校生活との関連を見いだすことができる。」が最も向上しなかったと回答しているが、こちらは小学校教育コースの学生に多い。

コーディネート力に関しては、どちらのコースの学生も「②学級経営、教科指導、生徒指導等について、教育実習生同士で協働して実践することができる。」が最も向上したと回答し、「①学校と保護者や地域との連携・協力の大切さを踏まえ、連携・協力が求められる活動に参画することができる。」が最も向上しなかったと回答している。

マネジメント力に関しては、どちらのコースの学生も「⑥応用実習に向けて、自分なりの課題を見付けることができる。」を別にすれば、「②児童・生徒が健康・安全に過ごせるよう教室環境を整えることできる。」が最も向上したと回答し、「①学年行事や学校行事の年間指導計画を基に、それらの役割を考え、進んで運営しようとする事ができる。」が最も向上しなかったと回答している。

IV 教育実践力の獲得に関する現状と課題

学習指導力に関しては、学生が最も向上したと回答した④の指標と平成 20 年度の最も高かった自己評価の指標が一致している。最も向上したと考える理由を挙げると、

- ・最初の授業と比べて、最後の授業では、冷静に自分の授業を振り返ることができ、次どうしたらよいか、考えることができた。
- ・授業後の反省会を通じて、問題点を明らかにし、次の授業にどのようにつなげるのかを教育実習中は、徹底して行った。
- ・実際に授業を行うことで、書面上では分からなかった時間配分、児童への反応、机間指導の難しさを知ることができ、今後の課題を見出すことができた。
- ・たくさんの実地授業を参観、まとめの会に参加し、様々な視点から改善点を見つけることが出来た。実習でしか中々できないことだと思う。

などで、授業に関する検討会、反省会が繰り返されたことがうかがえる。「実際の授業場面でなければ見つからない課題が多く見つかった。」という記述も多く見られ、教育実習を通して獲得した力として実感しているものと考えられる。

一方、①を最も向上しなかった指標として回答した理由は、

- ・教材は担任の先生や教科担当の先生に与えられたもので

教育実習における学生の教育実践力についての意識に関する考察

あり、自分で考えるのは「それらを使ってどのように学習し何を子どもたちが得るのか」というところからであったため。

- ・実験など、もともと決められた道具を使った授業が多かったので自分で選定する機会が少なかった。

のように、教材の選定をする機会がなかったことを挙げている。しかし、

- ・教材研究が不十分だった。知識がなさすぎた。
- ・生徒の発達の段階というものを具体的に意識できなかった。
- ・子どもたちがどんなものに興味を持ち、どのようなものを使ったらわかりやすくなるのかを考えるのは難しかった。

のように、機会があっても教科の目標や児童・生徒の発達の段階に対する理解が十分でなかったことを実践を通して感じている学生も多い。

生徒指導力に関しても、学生が最も向上したと回答した④の指標と平成 20 年度の最も高かった自己評価の指標が一致している。最も向上したと考える理由を挙げると、

- ・最初は児童が何を考えているのかわからなかったが、最後には児童の考えや想いに共感することができ、コミュニケーションができた。
- ・日数をかさねるごとに、子どもたちとのコミュニケーションや働きかけはどうすればいいのか少しずつではあるが、分かってきた。
- ・今まで中学生と関わる機会がほとんどなかったのでよい経験となり、生徒と教師としてのコミュニケーションを構築できた。
- ・休み時間、昼休みと時間を作り、生徒とのコミュニケーションを積極的にとった。

などがあり、この指標に関しては実習前の段階から積極的に取り組もうと考えていた学生が多かったようだ。その結果の自己評価と考えられる。

一方、②を最も向上しなかった指標として回答した理由は、

- ・児童の家庭での様子や地域との関わりについては、あまり深く知ることができなかった。
- ・子どもの家庭でのことなどは、あまり子どもと話すことがなかった。プライバシーもあるので、こちらもあまり聞くこともできなかった。
- ・家庭・地域での遊びや生活の様子を知る機会があまりなく、関連づけることができなかった。

など、広範囲な学区から児童・生徒が通っているため、家庭や地域について知る機会を持ちにくいとい

う附属学校の特徴が原因ということができる。

コーディネート力に関しても、学生が最も向上したと回答した②と最も向上しなかったと回答した①の指標と、平成 20 年度の最も高かった自己評価及び最も評価の低かった自己評価の指標は一致している。最も向上したと回答している②は、教育実習生同士の協働についてで、学生の置かれた立場を考えると当然もと考えられる。最も向上しなかったと回答した①の理由には、

- ・保護者や地域の方々と接する機会がほとんどなかった。
- ・まだまだ、学校という組織の一部として動くことは難しく、コーディネート力については、努力が必要である。などが挙げられており、保護者や地域の人々と関わる機会が少なかったことと、それらは担任個人というより学校組織として関わるが多いという特性によるためと考えられる。

マネジメント力に関しては、平成 20 年度の自己評価結果では評価の高かった④は、向上したとはとらえていないようである。学校や個人の情報の管理については、当然のこととして受け止めているのだろう。学生が向上しなかったと回答した①の理由として、

- ・年間指導計画を目にする機会がなかった。
- ・インフルエンザの影響で、行事がほとんど中止、または延期になってしまった。

というように、短期間の教育実習では、年間指導計画を意識する機会は少なく、また、限られた行事に携わることに困難が考えられる。教育実習の期間や期日によるところが大きい。

これらの回答結果からすると、教育実習で向上したと考える教育実践力と自己評価には、それほど大きなずれはないものと考えられる。しかし、教育実習を行う期間や附属学校の特徴を考慮し、学生にとって教育実習の成果として評価できる自己評価の指標をさらに工夫していくことが求められる。

4つの力の自己評価の具体それぞれに対する回答の傾向は、小学校教育コースと中学校教育コースの学生では、それほど大きな違いは見られなかった。しかし、教育実践力を大きく4つの力として見た場合は、小学校教育コースと中学校教育コースでは、とらえ方が違うことが分かる。小学校教育コースでは、生徒指導力が最も向上したと回答している学生が多いのに比べ、中学校教育コースでは、学習指導力が最も向上したと回答している学生が多い。同じ教科の授業を繰り返す中学校と比較し、違う教科

の授業を実施することの多い小学校では学習指導力の向上を実感しにくいのかもしれない。また、一日同じ児童と接する小学校では、

- ・子どもたちを目の前にして、実習前には分からなかった子どもの実態や発達段階、またそれに対する具体的な手立てを学び、実践し、結果として効果を見ることができた。

・「子どもと毎日直接的に関わる中で学んだこと」というのが、私の中で一番大きい。接するたびに得るものがあった。

のように、授業以外の場面で児童とかかわる機会が多かったためと考えられる。校種によるこのような違いを自己評価の指標にどのように反映させるかも今後の検討課題とすることができる。



図 14 一番向上した教育実践力 (小学校)

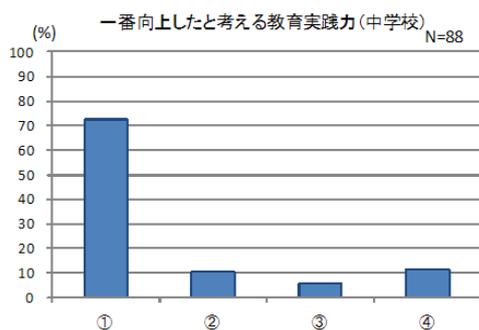


図 15 一番向上した教育実践力 (中学校)

V 終わりに

「教職実践ポートフォリオ」の自己評価の指標は、学生が自らの教育実習を振り返る指標としてだけでなく、身に付けるべき教育実践力の具体を示すものとなる。育成すべき教育実践力を身に付けることができる教育実習となるよう実習の内容を充実させると同時に、教育実習だからこそ育成あるいは発揮される教育実践力とは何かを十分吟味し、学生にとって一層意味のある指標となるよう検討されることが期待される。

<参考文献>

- 1) 有吉英樹, 「実践的指導力の育成を目指す教員養成教育の在り方ー岡山大学教育学部の場合ー」, 岡山大学教育実践総合センター紀要, 第9巻, 73-81, 2009
- 2) 笠原和彦, 「岡山大学における『教職実践ポートフォリオ』に関する一考察」, 日本教育実践学会第12回研究大会研究大会論文集, 204-207, 2009
- 3) 黒崎東洋郎他, 「教職実践ポートフォリオー教職実践演習に向けた学びの航跡をどのように残したらよいかー」, 日本教育大学協会全国教育実習研究部門教育実習研究, 第22集, 4-5, 2009

Title: A consideration about student awareness of practical teaching skills in teaching practice

Mitsuhiro YAMASAKI (Graduate School of Education, Okayama University)

Abstract The Faculty of Education in Okayama University is developing a "Teacher training core curriculum" to foster teachers with practical teaching skills and commencing trials of "Teaching practice portfolios" for students to evaluate themselves on practical teaching skills they acquired. A survey was carried out to clarify the changes in practical teaching skills of the students through gaining and demonstrating practical teaching skills in teaching practice in relation to the indications of self-evaluation in "Teaching practice portfolios". This research considers student awareness of practical teaching skills in teaching practice on the basis of the results.

Keywords: teaching practice, practical teaching skills, teaching practice portfolio, teacher education